

三次看護専門学校 授業要項

科目	解剖生理学（１）			担当講師名	池上 浩司、中里 亮太
学科名	学年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	開始時期
第一看護学科	1	A・B	2(60)のうち 30時間	講義	令和８年度前期
科目目標・単元目標					
人間の身体の機能の概要を理解する。					
授業概要					
人体の機能の概要と生命の発生と衰退を理解する。					
授 業 内 容	回数	内容		回数	内容
	1	解剖学を学ぶにあたって		11	消化器（胆肝脾）
	2	細胞		12	腎，泌尿器（解剖）
	3	血液		13	腎，泌尿器（生理：浸透圧調整）
	4	組織・恒常性		14	生殖器
	5	循環器(解剖：心臓)		15	発生と成長，老化
	6	循環器(解剖：脈管系)		16	試験
	7	循環器(生理：心電図，循環調整)		テキスト・参考書 系看 専門基礎分野〔１〕 解剖生理学 医学書院 カラー人体解剖学 中山書店	
	8	呼吸器(解剖)			
	9	呼吸器(生理：呼吸調節)		成績評価の方法 ☒ 筆記試験 ☐ レポート試験 ☐ 実技試験	
	10	消化器（消化管）			

三次看護専門学校 授業要項

科 目	解剖生理学（２）			担当講師	相澤 秀紀、 半田 高史
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	開始時期
第一看護学科	1年	A・B	2(60)のうち 30時間	講義	令和8年度前期
科目目標・単元目標 人間の身体の機能の概要を理解する。					
授業概要 人体の機能の概要と生命の発生と衰退を理解する。					
回数	時間数	内容	回数	時間数	内容
1	2	骨格とは、骨の連結、骨格筋	11	2	耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚
2	2	体幹の骨格と筋	12	2	痛み（疼痛）、脳の統合機能
3	2	上肢の骨格と筋	13	2	脳の統合機能、皮膚の構造と機能
4	2	下肢の骨格と筋	14	2	生体の防御機構
5	2	頭頸部の骨格、H筋の収縮	15	2	体温とその調節
6	2	筋の収縮、運動と代謝			
7	2	神経系の構造と機能	テキスト・参考書 系看 専門基礎分野〔1〕 解剖生理学 医学書院		
8	2	脊髄と脳			
9	2	脊髄と脳、脊髄神経と脳神経	成績評価の方法 ☒ 筆記試験 ☐ レポート試験 ☐ 実技試験		
10	2	運動機能と下行伝導路、感覚機能、体性感覚と上行伝導路、眼の構造と視覚			

※1回は90分（2時間）です。

三次看護専門学校 授業要項(計画)

科 目	生活行動から見た体のしくみ			担当講師名	専任教員	
学 科 名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	開 始 時 期	
第一看護学科	1	A・B	1 (15)	講義・演習	令和8年度 前期	
科目目標・単元目標 解剖生理学の知識を基に、人間の生活行動の体のしくみを理解する考え方を身に着ける。						
授業概要 この授業では、代表的な生活行動を取り上げ、解剖生理等の知識を応用しながら生活行動を理解する基本的な考え方をみにつける。また対象者を理解する際に、病理学や看護行為（特に観察と判断）とどのようにつながるのか知る。 本科目では、協同学習を行う。協同学習の実践と振り返りから、他者との協同に必要なスキルや協働性をはぐくむ。						
卒業時到達目標との関連 DP- ①・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12						
回数	時間数	内 容		回数	時間数	内 容
1	2	1 生活行動とは 2 演習ガイダンス（協同学習とは）	講義	11		
2	2	2 生活行動の理解（1） ① 見る	TBL	12		
3	2	② 立ち上がる・歩行する	TBL	13		
4	2	③ 排尿する	TBL	14		
5	2	④ 聞く・話す	TBL	15		
6	2	⑤ 覚醒する（睡眠）	TBL	テキスト・参考書 看護形態機能学第4版 日本看護協会出版会 解剖生理学, 医学書院 カラー人体解剖学 中山書店 他		
7	2	まとめ	グループワーク			
8	1	学習成果の発表	成果発表	成績評価の方法 ☑確認テスト（個人学習, グループ学習） ☑演習の取り組み：学習の振り返り（自己評価） ☑成果発表		
9						
10						

科 目	治療栄養学			担当講師名	外部講師（管理栄養士）
学 科 名	学年	時間数	開 始 時 期		
第一看護学科	2	30時間× 2クラス	2026年4月18日～10月15日		
科目目標・単元目標:各疾患の治療方針に基づいた食事療法の基準を理解し、看護プロセスの一環としての栄養管理を習得する。根拠に基づいた食支援の実践を通じて、合併症の予防や治癒の促進、健康の回復に寄与する看護実践能力を養う。					
授業概要:現代日本の食生活と健康課題を背景に、栄養管理の意義と看護師の役割を学ぶ。五大栄養素の生理的な役割を理解し、身体症状や検査データから栄養状態を判定するアセスメント能力を養う。また、疾患別の食事療法の根拠を習得するとともに、調理実習を通じて、患者の生活に寄り添った具体的な食支援技術を身につける。					
授 業 内 容	回数			回数	
	1	看護と栄養、健康づくり		11	消化器系疾患患者の食事療法（胃・腸疾患・肝臓病の栄養管理）
	2	栄養素の働き		12	ライフステージと栄養（日本人の食事摂取基準を含む）
	3	食物の消化と栄養素の吸収		13	高血圧疾患患者の栄養管理（減塩食の調理実習）
	4	臨床栄養と疾病別食事療法（病院食の種類と栄養補給法）、栄養ケア・マネジメント		14	高血圧疾患患者の栄養管理（減塩食の調理実習）
	5	循環器系疾患の食事療法（高血圧と動脈硬化及び心疾患の栄養管理）		15	症例検討
	6	調理実習について実習要領説明			
	7	代謝性疾患患者の食事療法①（肥満・痛風・脂質異常症の栄養管理）		テキスト・参考書 専門基礎分野 栄養学 医学書院	
	8	代謝性疾患患者の食事療法②（糖尿病の栄養管理）		食品成分表	
	9	血液疾患患者の食事療法、食物アレルギー疾患患者の食事療法		成績評価の方法 ☒ 筆記試験	
10	泌尿器系疾患患者の食事療法（腎臓病と透析治療期の栄養管理）		☒ レポート試験（提出物評価） ☐ 実技試験		

※1回は90分（2時間）です。

三次看護専門学校 授業要項

科 目	生化学			担当講師名	松崎 秀紀
学 科 名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	開 始 時 期
第一看護学科	1	A・B	1(30)	講義・実験	令和8年度 後期
科目目標・単元目標 私たちの身体は物質から成り立っており、全ての生命現象は無数の化学反応の複合したものであることから、様々な生命現象の化学的理解により、臨床において科学的行動をとることができる知識を獲得することを目標とする。					
授業概要 生体の構造とその構成成分について説明し、次にそれら生体分子の生体内における機能とその代謝について学んでいく。また生化学実験により、生体分子の化学的理解の具体化を図る。					
回数	時間数	内 容	回数	時間数	内 容
1	2	生化学とは 生物化学：生体構成成分と細胞構造	11	2	遺伝情報とその発現
2	2	生体成分の化学1：アミノ酸・タンパク質の化学	12	2	ビタミンとホルモン
3	2	生体成分の化学2：糖質の化学	13	2	水と無機物、生活習慣病
4	2	生体成分の化学3：脂質の化学	14・15	4	生化学実験
5	2	核酸の科学			
6	2	酵素の生化学			
7	2	代謝1：糖質代謝	テキスト・参考書 ◎専門基礎分野 人体の構造と機能 2 生化学. 医学書院		
8	2	代謝2：脂質代謝			
9	2	代謝3：アミノ酸・タンパク質代謝	成績評価の方法 ☒ 筆記試験 ☐ 実技試験		
10	2	代謝4：ヌクレオチド代謝			

※1回は90分（2時間）です。※試験は時間に含めます。